

# 教育長の視点

～その先にあるもの～

## ダイジェスト

全国の教育長はどのような視点で教育施策を立案しているのか。地域に密着した活動を行うベネッセの各支社長が教育長にインタビューした記事を、教育総合情報サイトVIEWnext ONLINEで発信している。ここでは、茨城県、島根県と島根県松江市の教育長へのインタビューのダイジェストを紹介する。

Web VIEWnext ONLINE

各教育長の記事の全編は、ウェブサイトでご覧いただけます。それぞれの2次元コードからアクセスしてください。

### 時代の変化に対応した教育環境の構築を目指す

～教員採用選考試験の見直しと働き方改革を推進～

茨城県  
教育委員会



やぎはしつねき  
柳橋常喜教育長

アントレプレナーシップ（起業家精神）や英語力などの育成に力を入れる茨城県。柳橋教育長は「時代の変化に対応した教育を実践できる教員を確保し、その力を発揮できる環境を整えなければならない」と語る。教員採用選考試験は2024年度から試験日を前倒しし、2次試験に模擬授業を取り入れて、教員としてのコミュニケーション能力を確認する選考方法に変更。働き方改革については、学校業務の明確化を図り、外部委託を進めている。中学校の部活動の地域移行は、県内44市町村のうち36市町村が着手した。さらに、職層や年齢、教職歴が混在した教員が参加する「働き方改革ブレイクスルー会議」を定期的実施。会議では、多忙な4月の授業を5時間制とする案など、斬新なアイデアが出されている。

教育長のさらなる視点はウェブ記事をご覧ください→



聞き手



エリア事業部  
推進本部  
関東支社長  
たなべしんき  
田邊心技

### 今いる子どもに全力を傾ける

～県と市、2人の教育長が貫く現場主義～

島根県  
教育委員会  
／島根県松江市  
教育委員会



島根県教育委員会  
のつけんじ  
野津建二教育長



島根県松江市  
教育委員会  
ふじはらあきひこ  
藤原亮彦教育長

同世代であり、忌憚なく教育論を交わす間柄の野津教育長と藤原教育長。2人が県・市の共通課題の1つに挙げるのが理数教育だ。文部科学省「全国学力・学習状況調査」（2023年度実施）の小学校の算数では、県の正答率が全国平均を下回る問題があった。「解けなかった原因を数式が苦手などと抽象的に捉えず、具体的に探り、授業改善をすることが重要」と藤原教育長は指摘。2人は松江市内の小・中学校を訪問し、各学校の校長・教頭と解決策について意見を交わした。教員採用では、県外からも募集する制度を構築。松江市と東京都を会場に、教職経験者を面接のみで選考する試験を実施している。

県外2大学と協定を結び、教員志望者に県内の小・中学校での現場体験プログラムを提供。松江市内の小・中学校も多数の志望者を受け入れる。「ふるさと教育」などを通じて地域住民が子どもを温かく支援する学校教育のよさに触れ、同県への教員志望者の増加を期待している。野津教育長は、「『地域の子どもは地域で育てる』という意識の高さが本県の大きな強み。誰もが魅力を感じる教育を築きたい」と語る。

教育長のさらなる視点はウェブ記事をご覧ください→



聞き手



エリア事業部  
推進本部  
中四国支社長  
おくだみつる  
奥田 満

VIEWnext ONLINE で記事の全編をぜひご覧ください